

桜と廻る

宮城県の南部に位置する大河原町には、100年の歴史の桜並木がある。桜を中心に地域循環をすることで、その景観を保護し、その魅力を伝える住宅を計画する。

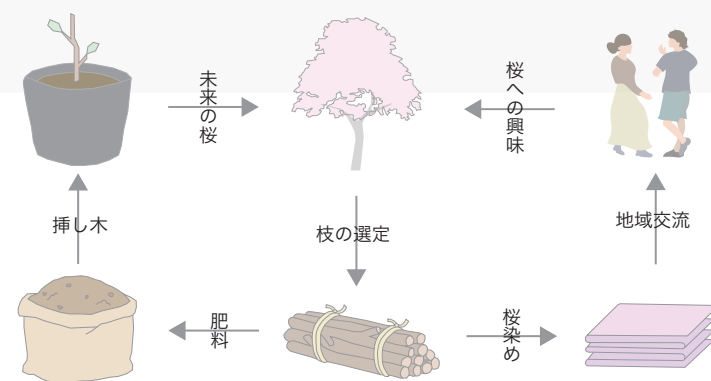


01. 敷地



02. 桜と地域循環

桜を健康な状態に保つために、地域の団体や高校生が枝の選定を行っている。現状として選定で出た枝の多くが処分されている。



03. 桜と春夏秋冬

大河原町の観光客の大半は

春



屋根を低くして、そこに桜が散り降り積もる。春の桜並木の景観に溶け込む。

秋

夏



落ち葉や、枝からの肥料から挿し木を植える。

冬

1 桜と土

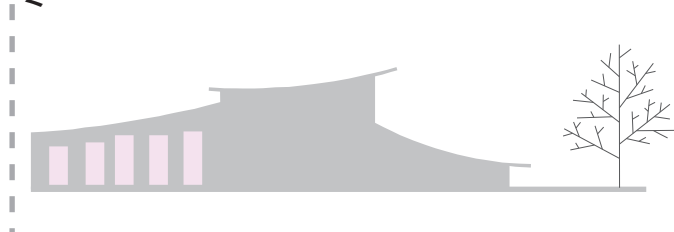
桜並木の景観を保護するために、多くの桜の木からの落ち葉や、選定された枝を土に返し、肥料として活用する。その肥料を用い挿し木を行い、今の景観を後世に残す。

2 桜と人

選定された枝を用い、町の新しい工芸品として桜染めを提案する。地域の住民や、観光客を巻き込み桜の魅力を伝える。

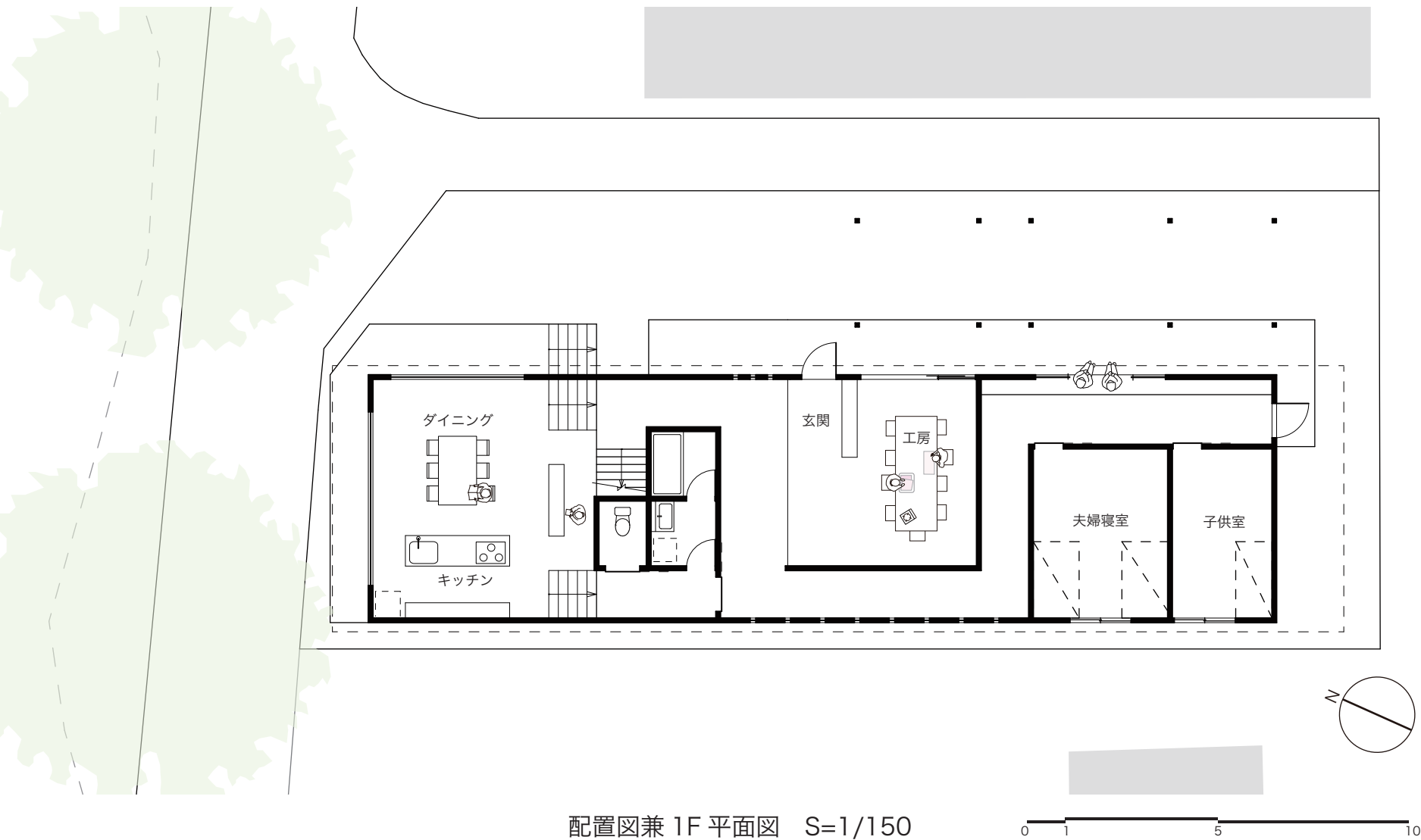
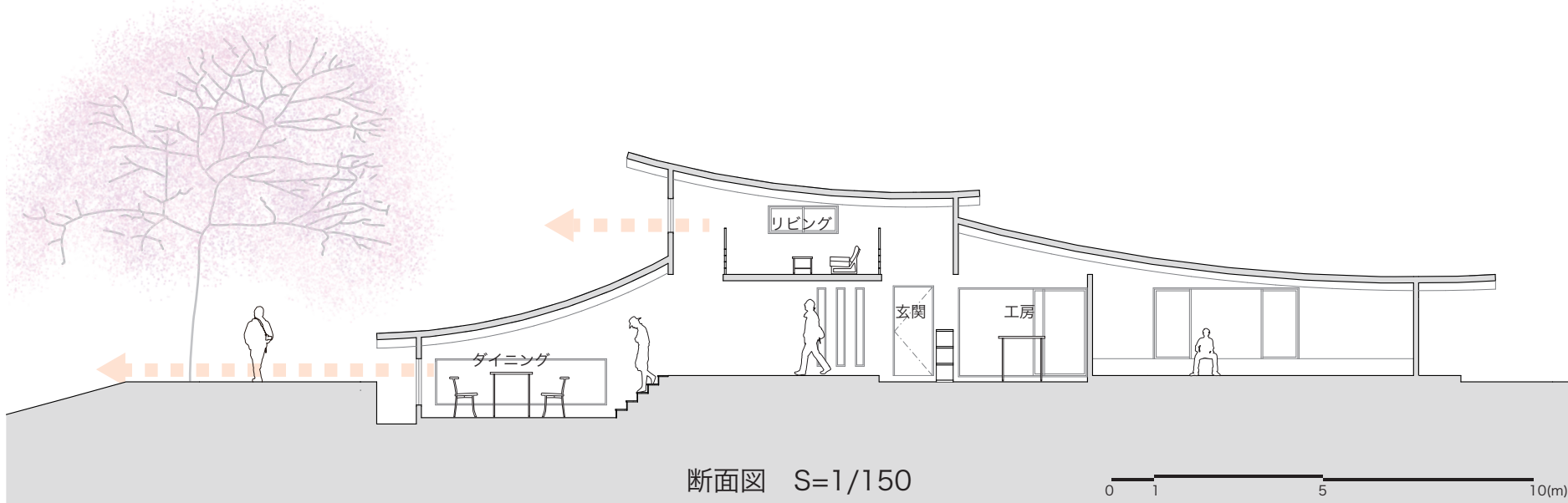


落葉し屋根に降り積もることで景観に溶け込む。空堀に落ち葉が落ち、土に還る。



殺風景な冬の並木の通りに、桜染めの布が干されることで彩が生まれる。

05. 平面図・断面図



06. パース

